

農業生産工程管理（GAP）は、「認証を取る」だけでなく、まずは産地全体で「GAPをする」ことから始めよう。JAGグループ山形は、9月中旬に開いたJAG山形中央会の理事会で、当面のGAPへの取り組み方針を決めた。

GAPは「良い農業のやり方」と直訳される。食品の安全や環境保全、作業の安全などを確かめながら「良い農業をする」ことで、懸念される各種リスクを最小限に抑える「守り」の取り組みが本来の考え方だ。2020年の東京五輪・パラリンピックを機に農産

「山形方式」のGAP推進

物の調達基準や輸出に向けた有利販売などの面で注目されがちだが、山形では「産地全体の底上げ」を最優先に、県版GAPが組み込まれた「やまがた農産物安全安心取組認証制度」に段階的に取り組むとした。

その上で、雇用型経営の農業生産法人を中心に経営改善にも生かし、さらに販売面から必要とあれば、来春までに第三者認証取得体制構築を目指す県版GAPや、グローバルGAP、JAGAPなど、高いレベルの第三者認証取得へと段階を踏んで導入を図っていく。第三者認証取得は、当

面は一部の生産者グループ単位を基本に取り組む。

地域・担い手サポートセンターは「高いレベルのGAPに、全ての生産者が直ちに取り組むのは困難。しかし、直ちに取り組むのが難しい生産者も産地を支える大事な担い手」と話し、

ピラミッド型をイメージした段階的な導入の考え方を説明する。

本県が「震源」となった02年の無登録農薬問題のよりに、安全・安心の問題は農家個人にとどまらず、産地全体にダメージを及ぼしかねないことも背景にあ

産地底上げ最優先に



稲刈りが進む県内。作業の安全に向け、「GAPをする」ことがまず求められる

常に「オール山形」を念頭に、全ての多様な担い手への目配りを忘れない山形方式の「良い農業」の実践は、何より産地の信頼につながる事が期待される。